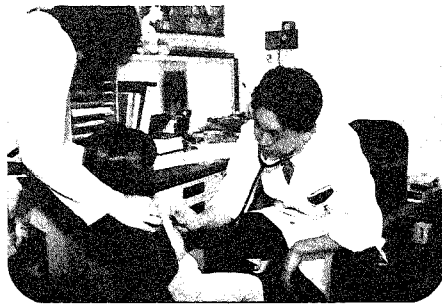


今月は、小児科と眼科について紹介しますので参考にしてください。



おなかの具合はどうか

小児科

Q1 小児科を受診するにはどうすればいいの？

A 初診、再診にかかわらず受付で問診票を渡しますので、必要事項を記入し提出してください。なお、母子健康手帳を持参すると記入するのに便利です。(小児の場合には薬に関係しますので、体温・体重は正確に記入してください) また、発疹や耳下腺の腫れがある場合は受付に申し出てください。他の患者さんに伝染する可能性があるため、特診室でお待ちいただきます。

Q2 予防注射を受けるのに手続きはどうすればいいの？

A 電話(45-1811)で予約してください。接種は毎週火・金曜日で、受付は午後二時～三時と

なっています。持参するものは、母子健康手帳と予診票(定期予防接種の予診票は、市役所保健環境課にあります)です。なお、水痘・おたふくかぜの予防注射を希望される方は、任意接種ですので市役所には予診票はありません。

Q3 乳児検診を受けるにはどうすればいいの？

A 電話で予約してください。検診日は、毎週金曜日午後三時からです。母子健康手帳は、必ず持参してください。なお、一歳未満の乳児は「乳児一般健康診査受診票」を提出すれば、無料になります。

(乳児一般健康診査受診票は、母子健康手帳の交付を受けるときに二枚渡されます。この受診票は、二回分の検診が無料になる用紙です)ので大切に保存しておいてください。

Q4 急な発熱や、ひきつけを起したらすぐに病院にいった方がいいのでしょうか？

A 熱が出たらまず、頭や脇の下を冷やしてやることです。熱の高低にかかわらず、ぐったりして元

気がないときはすぐに医師の診察を受けてください。

昔は「高い熱が続くと脳に障害が残る」といわれましたが、高い熱が出て肺炎や気管支炎では脳障害が起こることはありませんが、高熱が続く病気の中には脳炎や髄膜炎などがありますので注意してください。また、ひきつけは、生後六ヶ月を過ぎると熱を出したときにひきつけ(けいれん)を起こす赤ちゃんが二十人に一人くらいの割合でいます。ひきつけを起したら、あわてずに体を横に向け、吐いたときに肺に吸い込まないようにします。熱に伴ってみられるけいれんには、まれに脳炎や髄膜炎の可能性もありますので、最初にけいれんを起したときには医師の診察を受けたほうがよいでしょう。

このほかけいれんが一日に二回以上あるとか、一回のけいれんが十五分以上続いたり、体の右と左にけいれんの差があったりするような場合には、脳波などの検査をする必要がありますから、早めに医師に相談してください。

Q5 眼科の診察と検査、手術等の日程を教えてください。

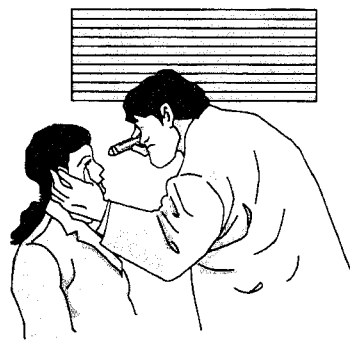
A 月曜日から土曜日の午前中は、一般診療を行っています。担当医は高橋先生ですが、金曜日だけは山梨医科大学付属病院から医師が出張診療しています。午後は、特殊な検査やレーザー

治療、メガネ合わせなどを月・水・木曜日の午後一時三十分から予約で診察します。

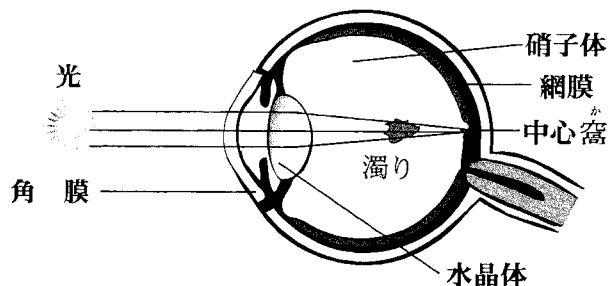
手術は、火曜日の午後で白内障の手術を中心に行います。(約一週間の入院が必要です)また、コンタクト外来は、第二、第四の月曜日と毎週木曜日の午後診療となります。ただし、コンタクトを作りたい方は、一度午前の診察を受けてから午後の予約をとってください。

Q6 飛蚊症ってなあに？

A 明るい所や白い壁、青空などを見つめたとき目の前に虫や糸くず等の「浮遊物」が飛んでいるように見えることがあります。視線を動かしてもなお一緒に移動してくるよう感じられ、まばたきしても目をこすっても消えませんが、暗い所では気にならなくなります。このような症状を医学的に「飛蚊症」と呼んでいます。その正体は目の中にあります。角膜と水晶体を通して外から入ってきた光は、硝子体を通して網膜まで達します。ところが硝子体



眼球の水平断面図



に何らかの原因で濁りが生じると、明るいところを見たときにその濁りの影が網膜に映り、眼球の動きとともに揺れ動き、あたかも虫や糸くずなどの「浮遊物」が飛んでいるように見えるのです。

飛蚊症のタイプには、生理的なもので健康な目にも起こる場合と、病気から起こる場合があります。生理的な現象で起こるものは、治療の必要はなく、多少うっとうしいと感じますが慣れれば特に問題はありせん。ただ、網膜裂孔や網膜剝離という病気を引き起こすこともあるので、定期的に検診を受けるか、浮遊物が急に多く見えるようになったら早急に受診してください。